
2014パークレンジャー養成基礎研修

第2回講座 「自然を観察してみよう」



2014/4/20

NPO法人日本パークレンジャー協会

1. 自然を五感で感じるとは？

1) 五官：人間が持つ五つの感覚器官

目、耳、鼻、舌、皮膚

2) 五感：五官の持つ情報感覚

視覚、聴覚、嗅覚、触覚

- 動物(人)は対象物が何であるか知ろうとする時
自らの五感をフルに働かせてそれを確認する
- * 五感を研ぎ澄まして 自然を見れば 普段見過ごして
いたものに気づき 興味が深まり 親しみがわいてくる

Sense of Wonder : Rachel Carson

「自然のもつ神秘や不思議さに目をみはる感性」

五感で感じて体で覚えたことは記憶に残る (理解する)

2. 自然のどこを見る?

1) 遠くから(森)全体を見る

- * どんな地形か? どんな緑の色合い、形の違い、樹種…
- * 森の歴史(木の高低、枯れているもの…)
- * 周囲の様子(動物はいるか 鳥や獣の気配 声 音…)

2) 近づいて見る

- * 近づくことで見えなくなるもの 見えてくるもの
- * 木の階層(高木、次に高い木 低木)
- * 木の種類 肌 葉の形 コケ 根 模様 虫…
- * 匂い 音 味 触った感じ、湿気・乾き…

3) 左右、前後、上下を見る

- * 上を見る(空の色、雲、木の枝の張り方や形)
- * 下を見てみる(落ち葉、腐葉、キノコ、生きもの)

4) 地面を調べて見る (枯葉の色・形・手触り・匂い・湿り・生きもの)

3. 自然の見方のヒント

- 1) 全体構造を見る(絵に書いてみる)
- 2) 近づいてみる(左右上下)
- 3) 五感を使う(見る、聞く、匂う、味わう、触ってみる)
- 4) 目の位地を変えてみる(座る、腹ばい、仰向いてみる)
- 5) ルーペで大きくしてみる
- 6) 言葉で書いてみる(詩や俳句、歌)
- 7) 観察したことを分かち合う(1人の目より多くの目)
- 8) 名前にこだわらない

4. 何のために自然観察をするのか?

■ 楽しみとしての自然観察

読書や音楽鑑賞などと同じ。自然の景色や草花・木・緑・実り・紅葉など美しさに触れ、自然の不思議や面白さを知る喜び

■ 自然から学ぶ

* 自然は人を育てる

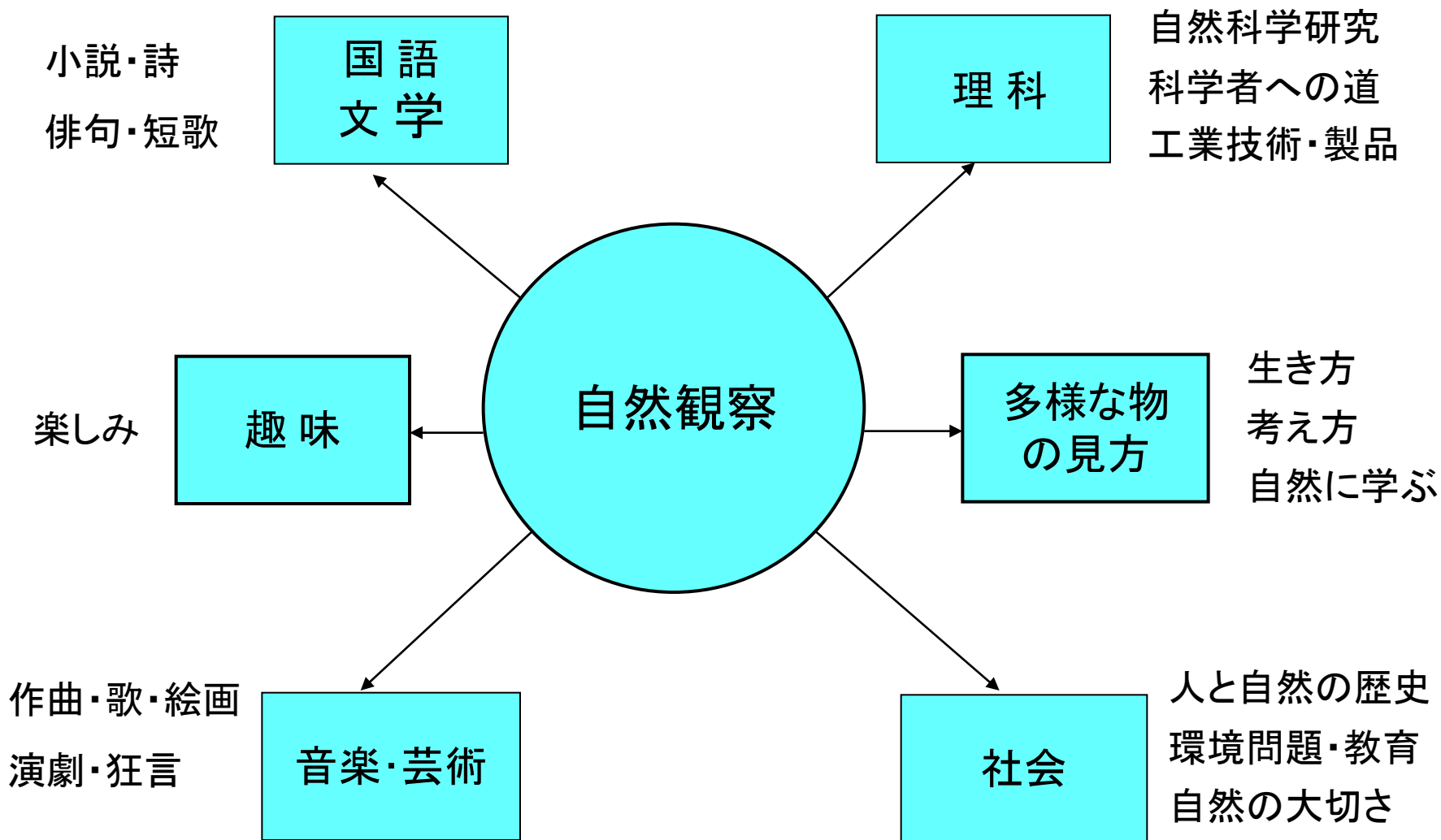
虫取・飼育・生命の大切さ、木登・冒険・恐怖、田舎への思い

* 自然観察の道は様々な分野に通じている

自然科学、音楽、芸術、文学、工業、環境、多様な見方・考え方

■ 自然の見方や考え方を学び、一人より二人、二人より大勢で学びあうことは楽しい

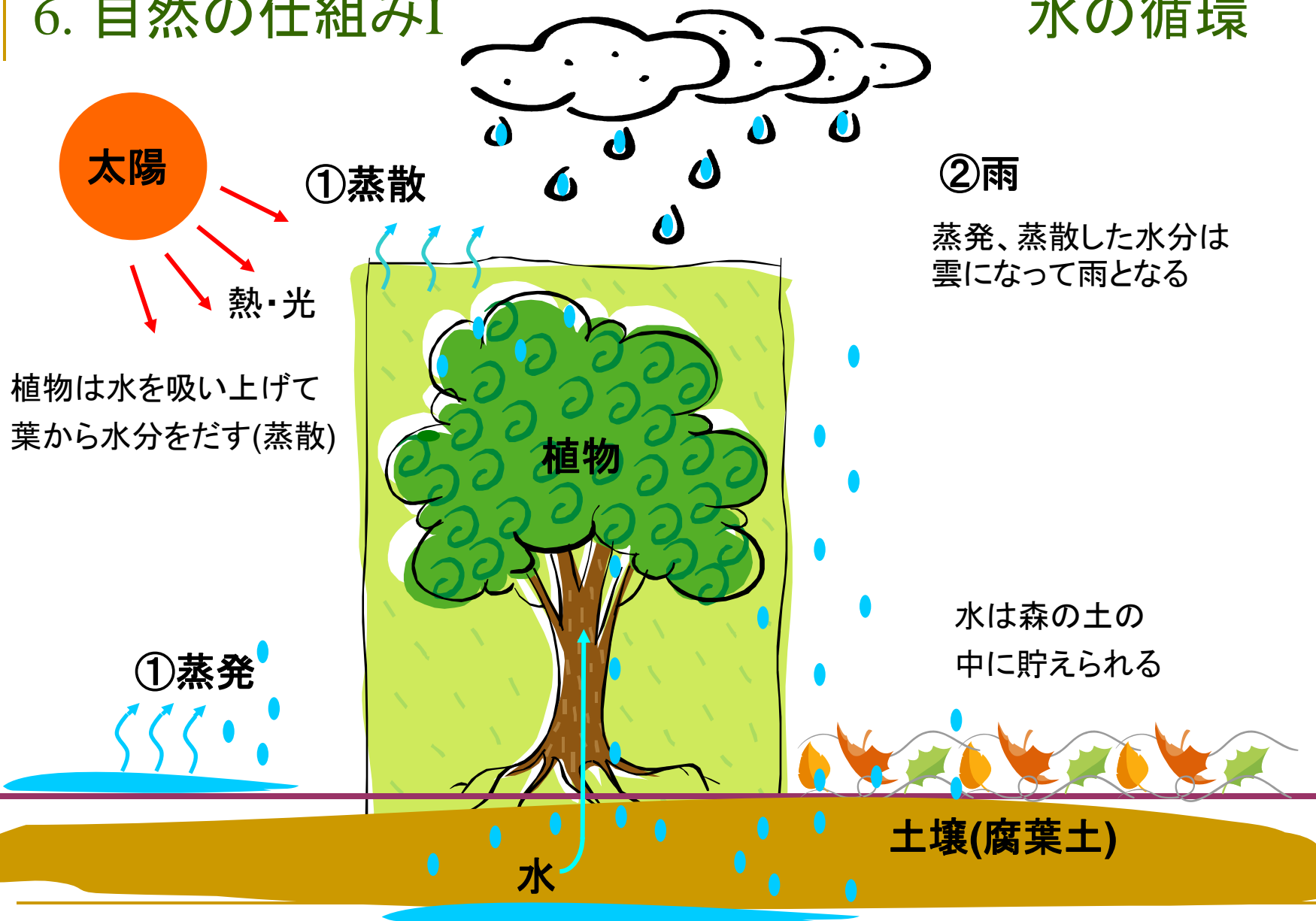
5. 自然観察の道は様々な分野に通じている



人は自然を見て様々なものを創造してきた

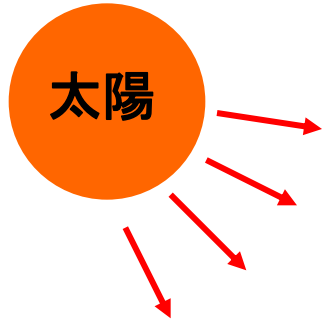
6. 自然の仕組みI

水の循環



水は地上と空を循環している

7. 自然の仕組みII 自然はつながっている



植物の光合成
水+CO₂ → 糖+O₂

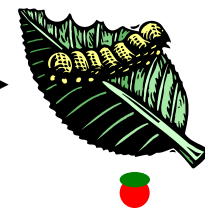


草食動物

昆虫

植物(生産)

ケムシ



野鳥



小動物



大きな獣

落葉・フン



キノコ



腐葉土

微生物(分解)

水 養分

ミミズ

みんな死ぬと土にもどる

生きものはつながって生きている(食物の連鎖)

8. 自然観察から自然の大切さに気づく

■ 自然の仕組みを知れば、自然の大切さが見えてくる

自然と自然の関係 / 自然と人の関係 / 人と人の関係

■ どのように自然の大切さを伝えるか？

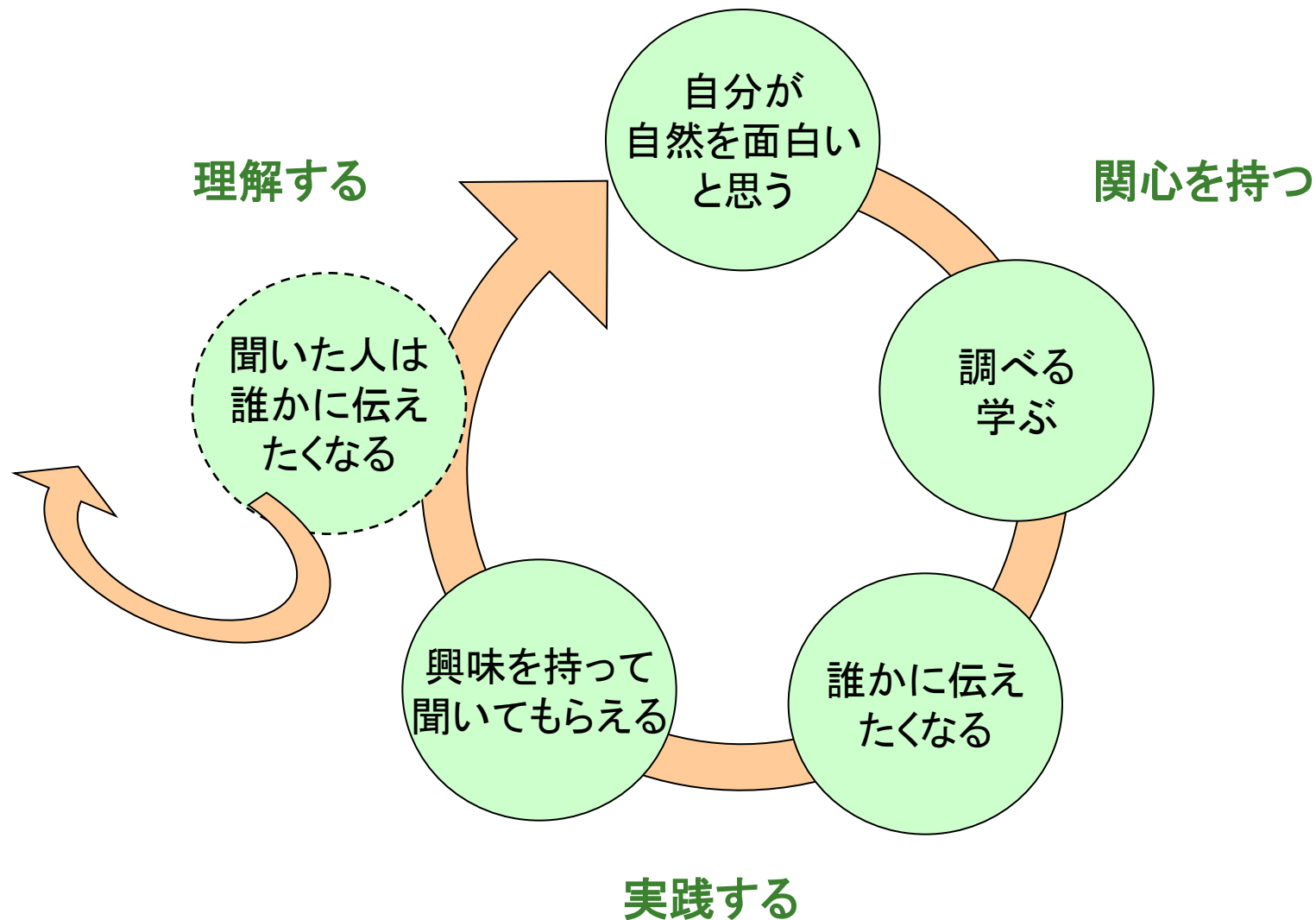
自然の中で楽しみながら その美しさや不思議や面白さを
体(五感)で感じて知ってもらう

人は自然を知りその大切さに気づき自分のこととして考える
ようになって 初めて自然を大切にしようと言う気になる

自然に親しむ → 自然を知る → 大切にする行動をする

自然の大切さの伝え方を「インタープリテーション」で学びます

9. 知のサイクル



知の循環は 血の循環と同じ → 人にとって大切なものを運ぶ